

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297400034		
法人名	株式会社アイケア		
事業所名	グループホームあいの街家代(1階)		
所在地	静岡県掛川市家代の里二丁目13番10号		
自己評価作成日	平成29年9月27日	評価結果市町村受理日	平成29年10月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2297400034-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成29年10月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

●「〇〇さんはこうした方が良いのではないかと…〇〇さんがこうしてほしいと言っている」等入居者一人一人に対し考え、職員間で聞きあい、意見を出し合い本人にとって最善の方法を見つけ出そうという姿勢が見受けられる。また、行動に起こすことが出来る職員が多い。●職員は入居者の微細な変化に対し、時には涙を流し、嬉しい時には一緒に喜ぶことが出来る。●H28年10月からH29年3月まで看取りが続きましたが誰一人弱音を吐かず本人にとっての過ごしやすさを重要と受け止め、真摯に向き合ってくれました。●ご家族様には事前の連絡なしで来たときにいつでも来れる様な体制を整えています。●職員不足の中、認知症周辺症状が悪化している方もおり、毎日のケアが大変と思う事も多々ありますが、不平不満を口に出すことなく毎日働いてくれています。●今後も入居希望の方を選ぶことなく、どんな困難事例にも対応していける事業所にして行きたいです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「介護の専門家としてのプライドを～」と職員に叱咤激励の指導し、「やり切った」との看取りを目指しています。全身硬縮、褥瘡でオムツも無理な為ペット用のシートを代用する等苦心したケースでは、点滴の針も入らなくなり「こんな想いまでして～もうゆっくりさせてあげたい」と涙が溢れてきて「やめるかやめないか」気持ちが揺らぐなか、「命を長らえさせるための点滴ではなく、本人が楽に逝くために必要な点滴なんです」との家族の言葉に救われた、ということもありました。本人の苦しさを取り除いてあげたい反面、残される家族に「後悔させたくない」と、家族の人生にまで触れるハートフルな熱意ある看取りはここ2年で8例となります。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『いつでも笑い声の絶えない 笑顔あふれる我が家でありたい』 身体・認知機能低下と共に想いを言葉にして表現できない方達にとっても、朝起きたら「おはよう」と、食事の時間が来たら「美味しいご飯が出来たよ」と声をかけてくれる人がいる。「嬉しい」と笑顔が返ってくる。そんな家である事を職員全員目指し実践しています。	玄関から明るいトーンの挨拶が飛び交い、また関わりにおいてもその人を中心に置くことが自然にできて、職員が「理念 — いつでも笑い声の絶えない 笑顔あふれる我が家でありたい」を体現していることを視認しました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	開所時より近所の方達による定期的なボランティアイベントが続いています。地域のイベントへの参加にも声をかけて頂いています。散歩に出れば近所の方達が笑顔で声をかけてくれます。子供たちの下校時に合わせ散歩に行き子供たちとも交流をしています。	近くの保育園の送迎時間に合わせて散歩に出て賑わいを味わったり、近所からは音楽レクのボランティアの隔月訪問があったりと、小さなふれあいが暮らしのなかにあります。地域の祭りにはご祝儀をだし、公民館で詩吟を堪能したりと、地域からの声に乗じています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議・地域の方達との交流を通じ、入居されている方達の事を理解して貰うと共に、認知症介護の専門職として地域の方達の相談にいつでも応えられる体制を整え、また発信しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に1度開催し、市・包括・地区・ご家族に参加して頂き、入居状況・サービスに関しての報告を行っています。又、困難事例等相談をし、アドバイスを頂ける関係づくりが構築できています。家族も遠慮せず話せる雰囲気もできていると思います。	運営推進会議の表紙には理念を刷り込み、性別・年齢・介護度のほかにADLや生活状況が端的に記載された解りやすい資料が用意され、近況報告には離設や事故も挙げられ、「事業所の実態を知ってもらいたい」との想いが伝わる秀逸なものです。	
5	(4)	○市町村との連携 2017/10/3	運営推進会議時に家族からの質問等にわかりやすく答えてくれます。また、事業所からの相談にものってくれ、一緒に考えてくれます。	前頭側頭型も快く受入れ、「困難事例は家代さんで～」と言ってもらえるほど、居宅介護支援事業所や地域包括支援センターとよりよい関係をつくる事が出来ています。また市は「運営推進会議への出席を増やして欲しい」との事業所のお願いに応えてくださっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在1名家族からの希望で車椅子体幹保持ワンタッチベルトの装着と就寝時のベッド4点柵を設置しています。あくまでも、本人の安全を守る為の方法と職員全員認知しています。行動に対する言葉の抑制には特に留意し周知徹底するよう教育しています。	玄関、ユニット入口は日中開錠しています。家族の要望から導入した体幹保持ワンタッチベルトについては、一時性・代替性・切迫性に係る書類を作成して市の了解を得ており、3ヶ月になろうとする今月に見直しの話し合いをもつことになっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	特に抑制に対する言葉に留意しています。身体的な虐待に関しては徹底できていますが、ついつい言ってしまう日常の声掛けの中にも虐待に繋がる言葉がある事を自覚してもらうようにしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の研修に参加し、ミーティングで職員全員で勉強会を開いています。ただ、難しい事なのでなかなか理解しきれない所もあり、徐々に理解していける様努力しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解して頂ける様説明しています。また、日頃からコミュニケーションを図り信頼関係の築けるよう努力しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員に関しても管理者がいない時でも気軽に要望等言ってもらえるよう家族との信頼関係を大切にしています。	「心身の状態からすると戸外はいかがなものか」といった場合でも、家族が「散歩にだしてほしい」と言えば折衷的な方法をとるなどして実践しています。遠方等理由があつて管理者とLINEでつながる家族が3名いて、近くから面会に通う家族と同じように状況を把握出来ています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	いつでも耳を傾ける状況を作るようにしています。職員の要望・意見に対し重く受け止め、改善すべきことは迅速に行うようにしています。	毎日申し送りが30分程度あり、月1回全体での職員会議がおこなわれ、いずれも少人数ということもあつて、皆口を開けています。また退所時には管理者に必ず出勤簿を渡すことになっているので1日1度はマンツーマンの時間をもていて、聴く態勢があります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤めて貰っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	推奨してくれています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	要望に応じ取り組んでくれています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	いつでも側にいて心と心の繋がりを大事にしていることを伝えており、また実践しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との信頼関係を作ることをとても大事と考え何でも話せる関係づくりを重視しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の必要とすることをしっかり理解するよう努力しています。また相談に応じ提案できることは素直に伝えていきます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	築いて今います。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は入居者と家族との絆はもちろん、自分たちとの絆も大事と考えており築けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居年数が長くなると共に認知症状も進んできて来訪される方、外出の機会等が減少してきているのが現状ではありますが、敷居が高くないような環境づくりをしています。次もまた来たいと思って貰えるような雰囲気づくりを心がけています。	「本当によくしてもらったから恩返ししているの」と、妻が毎日通ってくれる人、孫が成人式の振袖姿、卒業式の袴姿で訪ねてきてくれた人、カナダから娘がフランス人のパートナーと帰朝くださった人、一族郎党集まって事業所で写真撮影する人と其々の関係が続いています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者本人の意向を重視しつつお互いが関わりを持てるよう支援しています。 入居者同士の関係は職員全員把握し配慮しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	時々連絡をくれたり来訪してくれる方達があります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉だけではなく、言葉にできない想いも推し量る努力をしています。 全てを聞き入れる事が困難な時もあるが、お互いで話し合い、できる限り本人の意向に近づける様努めています。	入居時にその人と成育歴や家族関係を把握することはもちろんのこと、職員は皆投げかけ上手で、会話を通じて「今、ここ」の気持ちにふれ、最近では「美術館にいきたいなあ」という発語を受けとめています。	事情があつて美術館には行けていないとのことですが、図書館で写真集を借りてくるとか代替案を進めると、なお良いと思います。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員全員で把握できる様努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員で把握できる様努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の申し送り、介護経過記録等で共有し、また、気づいたことはその場で意見交換をするようにしています。本人の希望はもちろん、家族の想いにも配慮し介護計画に反映させている。	利用者及び家族に対する意向欄には本人と家族の言葉そのままに入っていて、中には「わからんなあ」と微笑ましい言葉もみられ、ひと肌を感じる介護計画書です。計画作成担当者と介護支援専門員とで作成していますが、職員意見は申し送り等で組み込まれています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	特別な記録を用意してはないが毎日の申し送り、ミーティング等で上がった情報を職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組んでいます。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	できる限りではあるが活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者は全員2週間に1度の訪問診療を受けている。24時間対応してくれ、いつでも相談にのり、必要に応じ駆けつけてくれます。医師だけではなく、看護師さんとの信頼関係も築けています。家族からも安心しているとの言葉をもらっています。	全員が地域に住む協力医に移行して、月2回の訪問診療を受けています。職員が日々経過記録に記した内容を勤務の看護師(准)が「入居者状況」と名付けたシートに集約して、医師に適切な診断を仰げるよう努めています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携を取り情報交換・相談を密にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族には入居時に説明してあります。体調の変化が見られたとき、例え微細な変化であっても報告し今後の話し合いを持つようにしています。終末期であっても、日常の生活を送ることが重要と考え、支援しています。	「介護の専門家としてのプライドを～」と職員に叱咤激励の指導し、「やり切った」との看取りを目指しています。本人の苦しさを取り除いてあげたい反面、残される家族に「後悔をさせたくない」と、家族の人生にまで触れるハートフルな熱意ある看取りはここ2年で8例となります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員訓練は受けており、看護師より急変時対応、応急処置の研修も受けています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難経路、避難場所は把握できています。地域との協力体制も築いています。	IHなことから火災発生の可能性は低いものの下へ降ろすことは悩ましい課題で、消防からは「待機」も方法の一つと指導を受けています。また地域の防災訓練に参加したい希望がありますが、こちらも区とスムーズに話が進んでおらず、隣近所との関係構築を進めている段階です。	防災においても地区との関係構築が円滑になるよう、備蓄の増量や発電機など、地域住民が頼りとするようなものを用意することも一考ください。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	徹底しています。	入室ノック、出勤時のタッチと挨拶は開設時から慣行しています。年長者を敬う言葉遣いができる職員、できない職員とやや凸凹がありますが、利用者本人は後者を「親しさ」や「孫とのふれあい」と受けとめているのか、気にするそぶりは見られません。	敬う言葉遣いのできていない職員について家族が不快に思わないか、といったことを確認できる(そういった仕組みがある)と、なおよいと思います。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	心がける様努力しています。 個人個人の希望、能力を把握し行ってもらっています。	業者から食材と調理法が平日は届いており、ミキサー食2名、ムース食1名とはなっていますが、各ユニット職員が手作りしています。食事前の嚥下体操や歌は職員によっておこなう、おこなわないがあり不定期で、テレビやBGMの音はなく、職員は見守りに徹しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の体調を考慮しつつ、トイレでの排泄ができるよう支援しています。特に排便に関しては、モニタリングを通し本人のパターンを把握しトイレに座って排便できる様誘導しています。	2人介助が常時必要な人が1名、その日の状態によってはさらに1名いて、含めると介助が必要な人が12名います。生活管理表のなかにある排泄チェックで概ねリズムができ、介助は必要なもののスムーズな支援ができてはいますが、一部排便が難しい人には茶寒天を提供しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お茶寒天・乳飲料等、本人の嗜好を考慮しつつ行っています。また、本人の体調を考慮しつつ軽い運動も心がけています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	拒否のある入居者が数名いますが言葉かけを工夫し無理強いのないように支援しています。入浴が大好きで毎日入りたい方がいます。が、なかなか希望に応じきれないのが現実です。家族の協力を得て、できる限り希望に沿うよう努力しています。	1週間に2回を目安としていますが、希望には応える工夫や努力もあります。特に「毎日」という利用者は家族が入浴介助のために訪れてくれたり、近くに在る家に本人を送迎したりして、想いが叶っています。	脱衣スペースの消耗品が乱雑になっていますので、すべて収納できるように是正(棚の購入、設置等)を期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の情報を職員がいつでも閲覧できるようにしており、変更があった時の留意事項も常時伝えています。微細は変化であっても、詳細に記録し他職員に報告するよう徹底しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	いつでも笑顔を引き出せるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩は日常的に行っています。家族が外出に連れだしたり、散歩に行ってくれたりと協力も得られています。	ここ2年で8名の有取りでの入れ替えもあつて、平均介護度も4.3から3.6に下がり、比較的戸外へと出ていけるようになってきました。河原に咲く桜、百合の花を眺めにでたり、掛川城の公園で過ごす時間を愉しんだりとのドライブ外出もありますが、年間企画での遠出はおこなっていません。	本部や系列事業所などの協力を得て、年に1度はイベント的な外出があり、家族も誘えたら、なおよいと思います。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は家族にお願いしています。 必要なものは家族の了承を得て、購入しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の意向に添って支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	工夫しています。	「飾るのは好まない」との管理者の考えを反映して掲示物は「開設のときの～」「〇〇さんから頂いた手作りの～」といった調れのあるものに限定されています。丁度暑さがぶり返した日の訪問だったこともあり、職員が頻回に「どう？」と、温度とともに衣服についても確認していました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好み、家族の想いに沿って工夫しています。	例えば車いすは週1回と定め、大抵は回数や時間帯、担当者を決めて清掃していますが、居室はやや奨励的な決めごとなためか、埃や小さなゴミが目立ちます。介護用ベッドが全室用意されていますが、「歩けなくて、動きたい」という利用者には布団に替えています。	掃除箇所、方法の共有化を図り、漏れのない掃除態勢となることを期待します。また日中2人体制では清掃に割く時間も難しいことから「清掃ボランティア」の募集をすることも一考ください。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	工夫しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297400034		
法人名	株式会社アイケア		
事業所名	グループホームあいの街家代(2階)		
所在地	静岡県掛川市家代の里二丁目13番10号		
自己評価作成日	平成29年9月27日	評価結果市町村受理日	平成29年10月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2297400034-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成29年10月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

●「〇〇さんはこうした方が良いのではないかと…〇〇さんがこうしてほしいと言っている」等入居者一人一人に対し考え、職員間で聞きあい、意見を出し合い本人にとって最善の方法を見つけ出そうという姿勢が見受けられる。また、行動に起こすことが出来る職員が多い。●職員は入居者の微細な変化に対し、時には涙を流し、嬉しい時には一緒に喜ぶことが出来る。●H28年10月からH29年3月まで看取りが続きましたが誰一人弱音を吐かず本人にとっての過ごしやすさを重要と受け止め、真摯に向き合ってくれました。●ご家族様には事前の連絡なして来たときいつでも来れる様な体制を整えています。●職員不足の中、認知症周辺症状が悪化している方もおり、毎日のケアが大変と思う事も多々ありますが、不平不満を口に出すことなく毎日働いてくれています。●今後も入居希望の方を選ぶことなく、どんな困難事例にも対応していける事業所にして行きたいです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「介護の専門家としてのプライドを～」と職員に叱咤激励の指導し、「やり切った」との看取りを目指しています。全身硬縮、褥瘡でオムツも無理な為ペット用のシートを代用する等苦心したケースでは、点滴の針も入らなくなり「こんな想いまでして～もうゆっくりさせてあげたい」と涙が溢れてきて「やめるかやめないか」気持ちが揺らぐなか、「命を長らえさせるための点滴ではなく、本人が楽に逝くために必要な点滴なんです」との家族の言葉に救われた、ということもありました。本人の苦しさを取り除いてあげたい反面、残される家族に「後悔させたくない」と、家族の人生にまで触れるハートフルな熱意ある看取りはここ2年で8例となります。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『いつでも笑い声の絶えない 笑顔あふれる我が家でありたい』 身体・認知機能低下と共に想いを言葉にして表現できない方達にとっても、朝起きたら「おはよう」と、食事の時間が来たら「美味しいご飯が出来たよ」と声をかけてくれる人がいる。「嬉しい」と笑顔が返ってくる。そんな家である事を職員全員目指し実践しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	開所時より近所の方達によるボランティアイベントが続いています。地域へのイベントの参加にも声をかけて頂いています。散歩に出れば近所の方達が笑顔で声をかけてくれます。子供達の下校時間に合わせ散歩に行き子供達とも交流をしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議・地域の方達との交流を通じ、入居されている方達の事を理解して貰うと共に、認知症介護の専門職として地域の方達の相談にいつでも応えられる体制を整え、また発信しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に度開催し、市・包括・地区・ご家族に参加して頂き、入居状況・サービスに関しての報告を行っています。又、困難事例等相談をし、アドバイスを頂ける関係づくりが構築できています。家族も遠慮せず話せる雰囲気もできていると思います。		
5	(4)	○市町村との連携 2017/10/3	運営推進会議時に家族からの質問等にわかり易く答えてくれます。又、事業所からの相談にものってくれ、一緒に考えてくれます。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在1名家族からの希望で車椅子体幹ワンタッチベルトの装着と就寝時のベッド4点柵を設置しています。あくまでも、本人の安全を守る為の方法と職員全員認知しています。 行動に対する言葉の抑制には特に留意し周知徹底するよう教育しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	特に抑制に対する言葉に留意しています。 身体的な虐待に関しては徹底できていますが、ついつい言ってしまう日常の声掛けの中にも虐待に繋がる言葉がある事を自覚してもらおうようにしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の研修に参加し、ミーティングで職員全員で勉強会を開いています。ただ、難しい事なのでなかなか理解しきれない所もあり、徐々に理解していけるよう努力しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	理解して頂ける様説明しています。また、日頃からコミュニケーションを図り信頼関係の築ける様努力しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員に関しても管理者がいない時でも気軽に要望等言ってもらえるよう家族との信頼関係を大切にしています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	いつでも耳を傾ける状況を作るようにしています。職員の要望・意見に対し重く受け止め、改善すべきことは迅速に行うようにしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めてもらっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	推奨してくれています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	要望に応じ取り組んでくれています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	いつでも側にいて心と心の繋がりを大事にしていることを伝えており、また実践しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との信頼関係をつくる事をとても大事と考え何でも話せる関係づくりを重視しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の必要とする事をしっかり理解するよう努力しています。また、相談に応じ提案できることは素直に伝えていきます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は入居者と家族との絆はもちろん、自分達との絆も大事と考えており築けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居年数が長くなると共に認知症状も進んできて、来訪される方、外出の機会等が減少してきているのが現状ではありますが、敷居が高くない様な環境づくりをしています。次もまた来たいと思って貰えるような雰囲気づくりを心がけています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者本人の意向を重視しつつお互いが関わりを持てるよう支援しています。 入居者同士の関係は職員全員把握し配慮しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	時々連絡をくれたり来訪してくれる方達があります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉だけではなく、言葉にできない想いも推し量る努力をしています。 全てを聞き入れる事が困難な時もあるが、お互いで話し合い、できる限り本人の意向に近づける様努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員全員で把握できる様努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員で把握できるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の申し送り・介護経過記録等で共有し、また、気づいたことはその場で意見交換するようにしています。本人の希望はもちろん、家族の想いにも配慮し介護計画に反映させています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	特別な記録を用意はしていないが毎日の申し送り・ミーティング等で上がった情報を職員間で共有し活かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組んでいます。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	できる限りではあるが活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者は全員2週間毎の訪問診療を受けている。24時間対応してくれ、いつでも相談に乗り、必要に応じ駆けつけてくれます。医師だけではなく、看護師さんとの信頼関係も築けています。家族からも安心しているという言葉ももらっています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携を取り情報交換・相談を密にしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族には入居時に説明しています。体調の変化が見られたとき、例え微細は変化であっても報告し今後について話し合うようにしています。終末期であっても、日常の変わらない生活を送れることが重要と考え、支援しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員訓練は受けており、看護師より急変時対応、応急処置の研修も受けています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難経路、避難場所は把握できています。地域との協力体制も築いています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	徹底しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	心がけるよう努力しています。 個人個人の希望、能力を把握し行ってもらっています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	行っています。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の体調を考慮しつつ、トイレでの排泄が出来る様支援しています。 特に排便に関しては、モニタリングを通し本人のパターンを把握しトイレに座って排便できる様誘導しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お茶寒天・乳飲料等、本人の嗜好を考慮しつつ行っています。また、本人の体調を考慮しつつ軽い運動も心がけています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	拒否のある入居者が数名いますが言葉かけを工夫し無理の無いよう支援しています。 入浴が大好きで毎日入りたい方がいます。が、なかなか希望に応じきれないのが現状です。家族の協力を得て、できる限り希望に沿うよう努力しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の情報を職員がいつでも閲覧できるようにしており、変更があった時の留意事項も常時伝えられています。微細な変化であっても、詳細に記録し他職員に報告するよう徹底しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	いつでも笑顔を引き出せるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は日常的に行っています。 家族が外出に連れだしたり、散歩に行ってくれたり協力も得られています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は家族にお願いしています。 必要なものは家族の了承を得て、購入しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の意向に添って支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	工夫しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好み、家族の想いに沿って工夫しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	工夫しています。		